

ももたろう基金～「平成30年7月豪雨災害支援基金」～

第8次(災害支援・復興)助成金申請書

【団体情報に関すること】

※本用紙に記載の個人情報は、本事業の実施にのみ使用します。

ふりがな	とくていひえいりかつどうほうじんぶどうのいえわたぼうし		
団体名称	特定非営利活動法人ぶどうの家わたぼうし		
代表者職名	代表理事長	ふりがな	たけだ なおき
		代表者氏名	武田 直樹 (印)
ふりがな	くらしきしふなおちょう		
団体住所	倉敷市船穂町		
電話番号		F A X	
設立年もしくは活動年数	平成25年4月1日設立		
スタッフ数	有給スタッフ _____ 10 名・無報酬スタッフ _____ 0 名・ボランティア等 _____ 0 名		
団体HP(あれば)			
FBページ(あれば)			
CANPAN登録	なし ・ あり (星 っ) 【団体ID: _____】		

※申請に関する事務担当連絡先(団体と異なる場合・電話番号については携帯電話など出来る限り直接本人につながるもの)

担当者役職名(必須)	理事	ふりがな	つだ ゆきこ
		担当者氏名	津田 由起子
郵送物送付先住所	倉敷市船穂町		
担当者電話番号 (極力携帯番号)		担当者 e-Mail	

る。

① から⑦活動は今後も継続する。

事業の実施内容

・どのようなことをいつ（回数等）やるのか

	オレンジボランティア	食事してお買い物	サロン	季節の調理会	住民勉強会	フリーイベント	
4月	発起人会、事務所立ち上げ	▽	◎▽	◎よもぎ餅	▲	随時	
	チラシ作成	▽	◎				
	オレンジボランティア養成講座	▽	◎	▲	▽		◎・・・実施
	活動場所調整（仮設）	▽	◎		▽		▲・・・企画
5月	復興だより用チラシ作成	◎	◎	▽	▽		▽・・・PR
	活動開始（仮設）	◎	◎		◎		○・・・準備
	↓	◎	◎		▲		
	ボランティアミーティング	◎	◎	○			管理人 1人
6月	復興だより用チラシ作成	◎	◎	◎	▽チラシ作成		オレンジボランティア事務局1人
	活動開始（みなし仮設）	◎	◎		▽		移送スタッフ1人
	↓	◎	◎	▲	▽		
	ボランティアミーティング	◎	◎		▽		
7月	お月見会実行委員会	◎	◎	▽	▽		
		◎	◎		◎		
	復興だより用チラシ作成	◎	◎		▲実行委員会		
		◎	◎	○			
8月		◎	◎	◎	▽チラシ作成		
		◎	◎		▽		
	お月見参加者受付開始	◎	◎	▲	▽		
	オレンジボランティア&移送ボランティア打ち合わせ	◎	◎		▽		
9月		◎	◎	▽	▽		
	お月見会	◎	◎		◎		
	お月見反省会&オレンジ中間報告	◎	◎		▲実行委員会		
		◎	◎	○			
10月	新年会実行委員会	◎	◎	◎	▽チラシ作成		
	オレンジボランティア養成講座	◎	◎		▽		
	発起人会	◎	◎	▲	▽		
		◎	◎		▽		
11月		◎	◎	▽	▽		
		◎	◎		◎		
	復興だより用新年会チラシ作成	◎	◎		▲実行委員会		
		◎	◎	○			
12月		◎	◎	◎	▽		
		◎	◎		▽		
		◎	◎	▲	▽		
		◎	◎		▽		
1月		◎	◎	▽	▽		
	新年会	◎	◎		◎		
	新年会反省会、発起人会	◎	◎		▲実行委員会		
		◎	◎	○			
2月		◎	◎	◎	▽		
		◎	◎		▽		
	オレンジボランティア養成講座	◎	◎	▲	▽		
		◎	◎		▽		
3月		◎	◎	▽	▽		
	オレンジ1年を振り返り来年につなぐ会		◎B.B.1年の活動報告会				
		◎	◎		▲実行委員会		
		◎	◎	○			

事業の実施体制

- ・事業実施にあたり、自団体の取り組みメンバーや連携先の団体など

オレンジボランティアの事務局、B. B. の管理人、ドライバーはそれぞれ1名ずつ候補者がある。三喜株式会社の職員はB. B. の活動に新たなメンバーとともに取り組む体制はあり、全面的にバックアップする。

11月からのB. B. の活動を通して、地域の方々とのつながりができ始めており、定期的または不定期に自主的にボランティアとして参加して下さるの方々がおられる。

イベントの際にボランティアの呼びかけをすると、毎回10名から20名の参加が得られる。

事業実施後の展望

- ・助成期間後も活動を継続す場合はその内容や展望
- ・助成期間をもって事業終了の場合は、その後の支援対象者の状況

・オレンジボランティアは事務局体制ができることにより、お互いさまセンター、支えあいセンターとの協働ができるようになり、情報共有できることで必要な方々により大きな支援ができる。

・「移動支援」が住民主体で活動出来るようになり、真備町全体にネットワークが構築されることで、より小さな困りごとや要望を拾えるようになる。

・住まいの勉強会は、住まい方から暮らし方、支えあいの仕組みづくりそして防災計画へと進歩していく。

その他

- ・その他事業実施にあたり、特に必要なことやPR

※この用紙に収まらない場合は、別紙企画書など添付ください。ただし、概要についてはこのページ1枚にまとめてください。